





中標津町内にあるセレクトショップの移転改修計画である生活に寄添う「道具」のような洋服や雑貨をセレクトしており一見すると雑多な印象も、店主の拘りを強く感じさせる時流に囚われない品々が並び、道内外にも根強いファンを持つセレクトショップである店主は映画や音楽に造詣が深く、店内の空気感にも心地よい抜け感があった流行を取り入れるような事はせず、店主がセレクトした商品が大きなボリュームの倉庫のような高さのある店内に溢れているように、また、以前の店舗にも流れていた空気感も取り入れる為、素朴な表情のシナ合板の棚板や塗装の色味として計画した既存建物の梁など工業的なスチール等の意匠も取り入れて、セレクトにあるワークテイストやミリタリー的な商品とショップ空間が適度に相互に関係していく